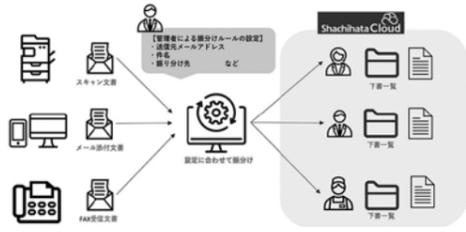


## 「メール連携」オプションを追加

### シャチハタクラウドとセイコーエプソン DXプロモーションの一環で



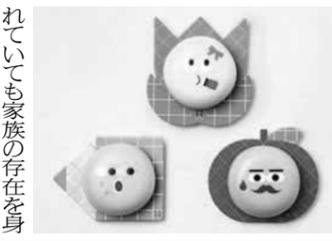
シャチハタ株式会社(舟橋正剛社長、名古屋)は、同社が提供する電子決裁サービス「Shachihata Cloud」(シャチハタクラウド)と、セイコーエプソン株式会社の商品・サービスの国内マーケティングおよび販売を担うエプソン販売株式会社(鈴木文徳社長、東京都)と共同で行うDXプロモーションの一環として、「エプソンのスマートチャージ」複合機とShachihata Cloudのシームレスな連携を実現できる、ノーコードでシステム連携が可能な、新たなオプション「メール連携」をサービスラインナップに追加した。

「Shachihata Cloud」は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い社会全体に推進されたデジタル化の波を受け、ビジネスシーンにおいて普及するテレワークでの決裁業務をサポートするため、顧客ニーズの高まりを受け開発。それまでの電子決裁サービス「パソコン決裁Cloud」の機能を拡張し、2020年に発表された電子決裁サービス「スマートチャージ」開始の2020年7月からの捺印回数を合算すると5291万7915回を記録しており、導入数はシリーズ累計95万件、継続利用率も97%を誇る。また、多くの企業のデジタル化、業務効率に貢献している。

日本企業の9割以上が中小企業といわれる中、DXを推進・検討している中小企業は24.8%に留まっている。中でも、受発注業務において見直しや注書などの文書をクラウド上で受信しているなど、紙での業務が多く残っている企業は多く、DX化が進められていない現状があった。また、紙を電子化していないことで、有事の際に即対応ができず、会社の業務が停滞する恐れや、出社を前提とした働き方など、現代の多様な働き方と逆行する部分があることも事実。今回発表された「メール連携」機能は、2021年にShachihata Cloudを導入し、実際に業務効率化を成功させているエプソン販売株式会社と共同でDXプロモーションを実施して行く中で生まれた。複合機のメールアドレスで受信したファイルから、複合機やスマートフォンでスキャンしたデータを事前に設定したルールにより自動振り分けを行うことで、Shachihata Cloudへのアップロードまで自動化することができ、紙の使用量減少に伴うコスト削減・環境対策はもろもろ、DX化による業務効率化を実現させる。

## ハローファミリーシリーズ

### BAT一般部門で優秀賞



株式会社(黒田英邦社長、大阪市)の、次世代の家族コミュニケーションをサポートする見守り親子IoTブランド「Hello Family」(ハローファミリー)シリーズが、Baby Tech Awards 2023安全対策と見守り一般部門で優秀賞を受賞した。「Hello Family」は、2023年3月より同社が展開する、家族の新しい形のコミュニケーションをサポートするブランド。「家族の『いま』は、もつとつながる。」をブランドメッセージに、離

れていても家族の存在を身近に感じることができ、日常の小さなアクションをほめたり、応援し合ったりとポジティブなコミュニケーションを活性化させることを目指している。

「削減・環境対策はもろもろ、DX化による業務効率化を実現させる。」

「B.A.T.2023」では、審査委員の支持率76%を獲得。「Hello Family」シリーズ各デバイス機能や親子が手に取りたい機能やチャタリングなデザインに加え、スマートフォンを使わずとも4種のデバイスとアプリが連携することで、親子が互いの「いま」を共有できる点が評価された。

株式会社スピリットオブワンター(堀江圭馬社長、東京都)の輸入文具などの仕入・生産・販売事業を承継した。承継する事業の内容はポディック、ボンディ、タイモ製品の仕入れ・生産から卸販売まで、10月2日より商品供給を開始した。

「旅する素材特設サイト開設」

三菱鉛筆株式会社(数原滋彦社長、東京都)は、様々な過程を経て、筆記具に生まれ変わった「素材」についての新しい「旅する素材の特設サイト」を開設した。

「旅する素材」の特設サイトを開設した。特設サイト「(https://www.mpmuni.co.jp/special/uni-material-journey/index.html)」を開き、サイトオープン記念として、カリモク家具担当者との新商品の開発にまつわる対談記事をサイト内「同時公開した」。

「旅する素材」の特設サイトを開設した。特設サイトには、様々なストーリーを持った「素材」を活用した商品の詳細と、当社の「素材」に対する向き合い方を紹介するコラムとしている。

## 祝儀袋の自販売機

### 地下鉄・有楽町駅 期間限定 実施

株式会社マルアイ(村松道哉社長、山梨県市川三郷町)は、新しいことへの取り組みとして、11月1日より30日の期間限定で、東京メトロ有楽町線有楽町駅に設置の自動販売機に出店、高級祝儀袋や不祝儀袋など15種類を販売した。自動販売機での祝儀袋の販売は業界初で、販売動向

に注目が集まっている。同社によると、日常のやりとりがデジタル化し、その手軽さに利点を感じる人が多く、冠婚葬祭などの特別な場面では相手に気持ちや心を込めたものを丁寧に贈りたいというニーズがある。また、昨年から時間対効果を目指す「タイムパフォーマンス」(タイムパフォーマンス)を重視する風潮は続いており、「良いものを時短で簡単に買いたい」傾向が強まっている。

また同社は「つつむ、つくる、つなげる」をコンセプトに、「包む」ことの価値や新たな可能性を創造し発信するプロジェクトをスタート。11月17・19日に東京・南青山のスパイラルで、4組の若手デザイナーが「一人一人をつなげる食品パッケージ」をテーマに制作した、少し未来の「包む」を展示する「MITT



「SU PROJECT」人とひとをつなげるパッケージ展」を開催した。

「SU PROJECT」人とひとをつなげるパッケージ展」を開催した。</